

『岸和田市総合戦略』H28年度実施事業の効果検証結果

No	プロジェクト名	取組名	実施内容	H27	H28	H29	H30	H31	KPI(重要業績評価指標)				外部有識者の意見 (岸和田市総合戦略に係る事業効果検証等会議における意見)	地方創生加速化交付金 対象事業						
									指標内容	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (年度)							
1	Lesding City 岸和田プロジェクト	自治基本条例の啓発・普及	自治基本条例の趣旨普及	→					講座等により条例を学習した市民の数	なし	90人 (H27)	0人 (H28)	8,450人 (H31)	・デジタル教材の活用について、小中学生だけでなく、一般の市民の方への普及促進にも活用されたい。 ・モデル校として、まずはどこか1校でも、デジタル教材を活用した自治基本条例に関する授業ができるか検討されたい。						
2			条例普及マンガの作成(市立産業高等学校の生徒による作成)	→																
3			デジタル教材・プリント教材の作成	→																
2	出産・子育て支援プロジェクト	安心して出産できる医療体制の整備	市民病院における産婦人科の充実	→					分娩数	58件 (H26)	146件 (H27)	117件 (H28)	440件 (H28末累計)	特になし。						
3	出産・子育て支援プロジェクト	健診未受診者に対する訪問	乳幼児健診未受診者家庭を訪問	→					未受診者訪問割合	なし (H27新規事業)	100% (H27)	100% (H28)	100% (H31)	当該取り組みは、児童虐待防止に加え、都市イメージの低下を防ぐことにも寄与する。						
4	出産・子育て支援プロジェクト	子どもの医療にかかる費用に対する助成対象者を拡充	対象年齢の拡充	→					子育て家庭の不安や負担の軽減対策に対する市民の満足度 (市民意識調査の満足度調査の数値を指標として活用。満足度とは、満足率(『満足』『まあ満足』と回答した人の割合)から不満率(『不満』『やや不満』と回答した人の割合)を差し引いた数値。)	-15.5% (H26)	-10.2% (H28)	-10.6% (H29)	-15% (H31)	・子育て世帯の医療費助成のニーズは高いことから(人口ビジョン「転出者アンケート」)、重要な取組である。 ・KPIの表現がわかりにくい。総合戦略改定時に修正する必要がある。 ・市民意識調査からの結果からも事業の有効性が確認できる。今後、効果をより適切に測るために、アンケート対象者を子育て世帯に絞り込んだほうがよいと思われる。						
5	出産・子育て支援プロジェクト	様々なニーズに対応する保育環境の整備	教育・保育施設の整備	→					保育所待機児童数 特別に保育を要する児童にかかる保育士の人数 障がい児受入増加数 チビッコホーム待機児童数	42人 (H27.4.1)	31人 (H28.4.1)	23人 (H29.4.1)	0人 (H31)	・順調に保育所、チビッコホームともに待機児童数が減少している点が評価できる。 ・病児保育事業に対するKPIの設定が必要である。 ・病児保育について、登録者数の推移を確認するなど、事業がどれだけ周知できているか把握する必要がある。また、利用実績等を踏まえ、施設配置の地域間バランスの検討も今後必要となってくる。						
6			民間保育施設の運営支援	→																
7			病児保育事業の実施	→																
8			チビッコホーム増設による定員拡大	→																
6	教育環境充実プロジェクト	児童生徒への支援体制の充実	心理カウンセラー(5名)の配置	→					小学校における不登校児童の割合 中学校における不登校生徒の割合 小中学校におけるいじめ解消率	0.6% (H26)	0.7% (H27)	1.0% (H28)	0.4% (H30)	特になし。						
7			エスパル指導員の配置	→																
8			スーパーバイザー(精神科医)の配置	→																
9			スクールロイヤーの配置	→																
10			スクールカウンセラーの配置	→																
11			スクールソーシャルワーカーの配置	→																
12			子ども支援員の配置	→																
13			幼稚園支援コーディネーターの配置	→																
14			スクールサポーターの配置	→																
7	教育環境充実プロジェクト	特別支援教育の充実	特別支援教育支援員・介助員の増員	→					1学級あたりの支援学級等支援者(特別支援教育支援員十介助員)の数	0.054 (H27)	0.055 (H27)	0.055 (H28)	0.124 (H31)	・KPIの表現がわかりにくい。総合戦略改定時に、修正する必要がある。						
8	教育環境充実プロジェクト	外国語教育の充実	外国人指導助手(ALT)の配置	→					英語の学習が好きと答える生徒(小学生)の割合	33.9% (H25)		45.6% (H28)	43% (H30)	・ALTの充実、授業改善研修など複数の取組を進め、着実にKPI(成果指標)等の実績が向上している点が評価できる。						
9			小学校英語教育研修の支援	→					英語の学習が好きと答える児童(中学生)の割合	21.4% (H25)		26.4% (H28)	31% (H30)	・『英語が好きと答える児童(小学生)の割合』については、全国平均値を目標値としてはどうか。 ・学力学習状況調査結果との相関関係を確認されたい。						
10	教育環境充実プロジェクト	学校園における情報教育システムの構築	小・中学校情報システムの構築	→					ICTを活用した授業の時間数(全小中学校における延べ時間数) 算数・数学の学習が好きと答える児童(小学生)の割合 算数・数学の学習が好きと答える生徒(中学生)の割合	21,617時間 (H26)	24,758時間 (H27)	29,271時間 (H28)	105,000時間 (H30)	・導入したICTを有効に活用できるよう、ICT教育研究や教員研修も一層充実されたい。 ・KPI『ICTを活用した授業の時間数』の時間の積算方法がわかりにくい。総合戦略改定時には補足説明を加える等の対応が必要である。						
11			小中学校及び幼稚園空調整備官民連携手法導入可能性調査	→																
12			官民連携手法(DBO方式)導入手続き、事業者の募集、選定、契約協議	→																
13	みんなで支えあいプロジェクト	三世代(親・子・孫)が岸和田市内で同居・近居できる環境整備を支援	官民連携手法(DBO方式)による設計・工事等(平成30年8月末竣工予定)	→					学校園普通教室クーラー整備率	0% (H27)		100% (H30)	・短期間で全ての学校園にクーラーを導入できる手法を選択したことで、早期の効果発現が期待できる。 ・クーラー導入による環境整備を学力向上につなげてもらいたい。							
14			市立産業高等学校市民公開講座(アーチェリー講座)の実施	→																
15	みんなで支えあいプロジェクト	リビング活動支援の推進	市民公開講座(アーチェリー講座)の実施	→					講座参加者数	なし (H27新規事業)	7人 (H27)	15人 (H28)	15人 (H31)	特色を生かし、産業高校にしかできない市民サービスの実施に取り組んでいる点が評価できる。						
16			住宅取得等補助	→	事業効果を踏まえ、方向性を検討					住宅購入及びリフォーム補助申請件数(市補助による)	なし (H27新規事業)	12件 (H27)	50件 (H28)	100件/年	・補助金利用者アンケート結果等をふまえ、事業効果を検証したうえで、定住促進に資する住宅政策としての施策を検討されたい。 ・池田泉州の取組内容をもっと具体的に記載すべき(例:『住宅ローンの金利優遇等』)。					
17	みんなで支えあいプロジェクト	みんなが集まる居場所づくり支援を検討	リビング活動支援の推進	→					・テーマ型組織の活動のネックとなる活動場所の確保に向けて、地縁型との連携支援にも取り組まれたい。											

『岸和田市総合戦略』H28年度実施事業の効果検証結果

No	プロジェクト名	取組名	実施内容	H27	H28	H29	H30	H31	KPI(重要業績評価指標)					外部有識者の意見 (岸和田市総合戦略に係る事業効果検証等会議における意見)	地方創生加速化交付金対象事業
									指標内容	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (年度)		
14	まちの拠点形成プロジェクト	公共交通のあり方を検討、利便性を向上	路線バス・コミュニティバスにICカード等導入の支援	➡					市内で運行されているバスの1日平均乗車人数	3827人 (H26)	3,861人 (H27)	3,691人 (H28)	4,100人 (H30)	■公共交通全般について ・ローズバスのルートと、南海ウイングバスのルートで重複する部分がある。 ・南海ウイングバスと鉄道との棲み分けが必要ではないか。 ・例えば、駅と市民病院等、利用者が多い停留所同士はシャトルバスのように直接つなぐことも必要ではないか。ローズバスのように循環ルートだと目的地まで時間がかかる。 ・グリーンビレッジ構想による、丘陵地区的クリーンなイメージを損なわぬよう、交通面もあわせて検討し、車依存度が高いまちにならないようにしなければならない。 ■地蔵浜みなどマルシェへの交通アクセスについて ・地蔵浜みなどマルシェへの交通アクセスの改善に向けて、ローズバスのルート変更を検討してはどうか。カンカンの大坂側にある停留所を浪切の駐車場入口付近に替えるだけでも大分改善できると思われる。 ・阪南2区の企業で自社バスを導入しているところと相談し、社員以外も乗せられないか調整はできないか。社員を駅等から工場へ送った帰りは、バスに誰も乗っていない。(自社バス運行に市が一部の費用を負担し、一般の方も乗れるようにするという手法も含め検討できないか)	
			交通まちづくりアクションプラン策定		➡				生きがいを感じている65歳以上の市民の割合	52.6% (H27)	51.5% (H28)	47.3% (H29)	56% (H31)	■指標について ・高齢者の交通ニーズが満たされているかどうかを測る適切な指標が他にないか検討する必要がある。 ・高齢者だけではなく、妊婦や子育て世帯の方の交通ニーズが満たされているかどうかを測定する指標も必要ではないか。	
			プランに基づく事業の実施			➡			高齢者が安心して生活できていると感じている市民の割合	18.1% (H27)	20.7% (H28)	21.1% (H29)	22% (H31)		
15	まちの拠点形成プロジェクト	JR阪和線東岸和田駅付近の鉄道高架化の実現	上下線高架化に向けた取組の実施		➡				踏切による交通遮断時間(市道並松上松線) 踏切による交通遮断時間(府道岸和田港塔原線)	9.8時間/日 (H21) 9.6時間/日 (H21)	6.7時間/日 (H26(下り線高架後)) 5.2時間/日 (H26(下り線高架後))	6.7時間/日 (H29) 0時間/日 (H29)	0時間/日 (H29)	特になし。	
16	まちの拠点形成プロジェクト	グリーンビレッジ構想の推進	岸和田グリーンビレッジ形成計画策定	➡					まちづくり(育て)活動実施回数	2回 (H26)	4回 (H27)	9回 (H28)	15回 (H31累計)	・グリーンビレッジ構想による、丘陵地区的クリーンなイメージを損なわぬよう、交通面もあわせて検討し、車依存度が高いまちにならないようにしなければならない。	○
			人材・ネットワークの育成		➡				市外からの参画団体(企業・世帯)	4団体 (H26)	5団体 (H27)	7団体 (H28)	22団体 (H31累計)		
			地域資源を活かした産業の創出		➡										
			拠点を支える基盤づくり		➡										
17	まちの拠点形成プロジェクト	丘陵地区内に農業拠点の形成	次世代施設園芸拠点構想の策定	➡					農業参入希望者数	なし (H27新規事業)	77件 (H27)	85件 (H28)	累計30件 (H31)	・実績値が目標値を大幅に上回っており、取組の効果が現れているように見受けられる。目標値を上方修正する等、更なる効果発現を目指してほしい。	
			岸和田フードバレー計画の推進		➡										
			補足水源調査		➡										
			竹木の有効活用方策検討	➡											
18	まちの拠点形成プロジェクト	山手地区のまちの姿を検討	地域の拠点づくり構想の検討		➡				住民による地域のまちづくりを考える検討会の開催回数(参加人数)	なし (H27新規事業)	2回 (31人)	6回 (66人)	15回 (225人) (H31(累計))	・山手のまちのあり方検討については、地元住民の意向が大事だが、住民の危機感がないと協議が進まない。学校やJAもまきこみ、引き続き地元の意向を聞き、方向性を整理されたい。	
			地域のエリアマネージメント方策の検討		➡										
19	「ひと」を育て、「まち」を元気にプロジェクト	創業しようという者を支援	創業時の店舗等改装工事を補助		➡				創業実現件数	なし (H27新規事業)	11件 (H27)	13件 (H28)	累計100件 (H31)	・一定の効果はあったと思われるが、ターゲット設定(重点支援産業や重点エリア等)によって、より効果が高まるし、国の交付金を活用しやすくなるのではないか。 ・ターゲットを設定する場合、『女性』や『若者』が考えられる。 ・一方、対象を絞り込みすぎると、交付申請者数の減少が懸念される。そこで、対象は絞り込まないが、重点支援産業の交付限度額を通常より高くするといった制度設計を検討してはどうか。	
			商工会議所による創業支援(創業セミナー、創業個別相談の実施)		➡										
20	「ひと」を育て、「まち」を元気にプロジェクト	市内企業への就労機会の拡大	関係機関との連携による地元企業説明会の実施			➡			合同企業説明会参加者数	なし (H27新規事業)		51人 (H28)	200人 (H31(4年間累計))	・市内企業の合同企業説明会については、少子化が進み、今後ますます学生集めが難しくなる。学生集めのために何らかの策が必要である。 ・就職内定時期を踏まえると、開催時期の変更や大学3回生も対象にする等の検討が必要である。また、説明会に来たらプレゼントがある等の集客強化策も必要。	
21	「ひと」を育て、「まち」を元気にプロジェクト	青年新規就農者の育成	青年就農給付金を給付			➡			申請者数	0人 (H26)	3人 (H27)	4人 (H28)	8人/年	特になし。	

『岸和田市総合戦略』H28年度実施事業の効果検証結果

No	プロジェクト名	取組名	実施内容	H27	H28	H29	H30	H31	KPI(重要業績評価指標)				外部有識者の意見 (岸和田市総合戦略に係る事業効果検証等会議における意見)	地方創生加速化交付金対象事業	
									指標内容	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (年度)		
22	「ひと」を育て、「まち」を元気にプロジェクト	産業振興制度の活用を促進	国・府・市支援制度の周知					→	企業への支援制度周知のための訪問件数 岸和田市起業支援メールマガジンの配信件数	なし (H27新規事業)	76件	0件	1,000件 (H31(5年間累計))	・企業向けの市助成制度等をまとめて確認できるインターネットサイトが必要ではないか。「ミラサポ」を活用し、市施策を紹介できるようにすべきではないか。	
			支援制度説明会等のセミナー開催	→						なし (H28新規事業)	0件	287件	3,500件 (H31(4年間累計))		
			企業支援メールマガジンの配信				→								
23	「ひと」を育て、「まち」を元気にプロジェクト	産業人材の確保・育成を支援	市内企業が、遠方(近畿圏に限る)の合同企業説明会等に参加する際の費用を助成				→		市外の合同企業説明会参加企業数	なし (H28新規事業)		1社 (H28)	32社 (H31(4年間累計))	特になし。	
			市内企業が研修会等を開催または受講する場合の経費に対し補助				→		人材育成取組事業所の数	なし (H28新規事業)		3社 (H28)	52社 (H31(4年間累計))		
24	岸和田のええとこ教えちゃろプロジェクト	シティセールスプランの策定・推進	シティセールスプランの策定	→					「居住意欲度」府内順位	13位 (H26)	12位 (H28)	11位 (H28)	5位 (H31)	・シティセールスは話題性が重要。少し尖ったというか特徴的な事業があつてもいいのではないか。担当課だけで実施するのが難しい場合、庁内PTを立ち上げるとともに、メディア関係者などにアドバイザーになってもらつてはどうか。 ・岸和田市に足を運んでもらうためには、女性への訴求が重要。女性をターゲットとしてPRしてはどうか。(例えば、女性が本物の雑誌と間違えて手に取るようなデザインの市紹介冊子もいいのではないか。) ・事業内容とKPI(新聞で岸和田関連の話題が取り上げられた件数)について、より適切なKPIの設定が望まれる。	○
			プランに基づく事業の実施				→			233件 (H26)	217件 (H27)	204件 (H28)	260件 (H31)		
25	岸和田のええとこ教えちゃろプロジェクト	市民みんなで岸和田をPR	職員によるSNSを活用した情報発信				→		投稿写真等に付けられた「いいね！」の数 ハッシュタグ「岸和田MODE」を付けて投稿された写真等の数	なし (H29新規事業)			24,000件 (H31)	特になし。	
			市民によるSNSを活用した情報発信の促進				→					500件 (H31)			
26	岸和田のええとこ教えちゃろプロジェクト	岸和田アートプロジェクトの推進	アートによるまちの魅力創造				→		事業の参加者のうち、ターゲットとなる年代の人数 事業実施回数	357人 (H26)	573人 (H27)	5,833人 (H28)	500人 (H30)	・イベントを実行委員会形式で実施するなど、多様な主体をまきこみ実施できた点が評価できる。今後は、市民が主体となり、事業の自立化が望まれる。	○
27	岸和田のええとこ教えちゃろプロジェクト	まち歩き観光の推進	インバウンド誘致観光動画の作成	→					だんじり会館来館者数 岸和田城入場者数	36,433人 (H26)	36,394人 (H27)	31,712人 (H28)	37,000人 (H30)	・泉州DMO設立に向けて、岸和田市による取組と広域による取組の関連性、役割分担を整理されたい。 ・ターゲット国により観光動向や趣向が異なる。費用対効果の面からも、ターゲットを意識してPRや環境整備に取り組む必要がある。	○
			だんじり3D映像の作成	→						43,397人 (H26)	41,345人 (H27)	38,165人 (H28)	45,000人 (H30)		
			動画等を活用したPRの実施				→								
28	地域の安心・安全プロジェクト	防犯カメラの設置	防犯カメラを設置する町会等への補助				→		防犯カメラの設置箇所	72箇所 (H26)	112箇所 (H27)	167箇所 (H28)	277箇所 (H30)	特になし。	
29	地域の安心・安全プロジェクト	市内木造住宅の耐震化	耐震化に関する啓発・広報活動				→		耐震診断補助戸数 耐震改修工事(耐震シェルター含む)補助戸数 耐震シェルター設置費に対する補助金の交付 除却補助戸数	69戸 (H26)	66戸 (H27)	80戸 (H28)	50戸/年	特になし。	
			耐震診断・耐震改修工事費に対する補助金の交付				→	24戸 (H26)		29戸 (H27)	27戸 (H28)	40戸/年			
			耐震シェルター設置費に対する補助金の交付				→	3戸 (H26)		13戸 (H27)	21戸 (H28)	20戸/年			
			旧耐震基準(昭和56年5月以前)の木造住宅の除却費に対する補助金の交付				→								